

産地戦略

実施期間 令和4～6年度

実施主体 滋賀県
都道府県 滋賀県
対象地域 近江八幡市、甲賀市
対象品目 水稲



新たに取り入れる環境にやさしい栽培技術の分類

● 化学農薬の使用量の低減	温室効果ガスの削減（水田からのメタンの排出削減）	温室効果ガスの削減（プラスチック被覆肥料対策）
化学肥料の使用量の低減	温室効果ガスの削減（バイオ炭の農地施用）	温室効果ガスの削減（省資源化）
有機農業の取組面積拡大	温室効果ガスの削減（石油由来資材からの転換）	温室効果ガスの削減（その他）

目指す姿

カメムシ類の防除は、水稲作における殺虫・殺菌剤の使用量の大きな割合を占め、慣行的な薬剤防除が行われている。そこで、農薬に頼らない防除技術である出穂期の畦畔草刈り、また、発生予察情報を活用し、慣行防除ではなく栽培者が防除の要否を判断し、農薬の使用量が低減できる。

現在の栽培体系 栽培マニュアルのとおり

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名													
技術名													



グリーンな栽培体系 栽培マニュアルのとおり

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名													
技術名													

グリーンな栽培体系等の取組面積の目標

	現状R6	目標R11	備考
（参考）対象品目の作付面積（ha）	28,300	▶ 28,300	
グリーンな栽培体系の取組面積（ha）	3	▶ 70	
環境にやさしい栽培技術の取組面積（ha）	3	▶ 70	
省力化に資する技術の取組面積（ha）	3	▶ 70	

環境にやさしい栽培技術・省力化に資する技術の概要

〈技術の内容・効果〉

分類	産地の慣行	新たに取り入れる技術	期待される効果
環境 省力	カメムシ類の慣行的な薬剤防除	畦畔草刈りの実施、発生予察情報等の活用による防除の要否判断によりカメムシ類の防除を削減することで、化学農薬の使用量を50%低減した防除体系を取り入れ、人や環境に対するリスクを下げる栽培技術。	農薬を低減による環境負荷の低減。 農薬散布の労力低減。

〈技術の効果の指標・目指すべき水準〉

分類	指標	現状	目指すべき水準	備考
環境 省力	化学農薬の使用低減（成分）、農薬散布の労力低減	5	▶ 2	殺菌・殺虫剤を使用しない
			▶	
			▶	
			▶	

* 環境にやさしい栽培技術のうち化学農薬・化学肥料の使用量の低減および省力化に資する技術については、原則、検証結果を踏まえて効果の指標・達成すべき水準を設定する（有機農業の取組面積拡大、温室効果ガスの削減に資する技術については、当該欄の記載は任意とする）

* 化学農薬の使用量の低減については、どの剤の使用量を削減するのか、どの剤からどの剤へ切り替えるのかが分かるように記載する

グリーンな栽培体系の普及・定着に向けた取組方針

本事業で明らかになった技術を元に、滋賀県、関係機関が一体となり、マニュアルを活用しながら技術普及と理解促進を進める。
--

関係者の役割

関係者名	近江米振興協会	全国農業協同組合連合会 滋賀県本部	滋賀県	
役割	当該技術の広報・波及	当該技術の広報・波及	当該技術の普及	

その他